



パキスタン

31 インダス・ハイウェイ建設事業 (1)(2)(2B)

インダス川の西岸を走る国道55号線(インダス・ハイウェイ)約1,200kmを改良・整備することにより、基幹道路としての道路交通の円滑化を図り、もって南北道路軸を強化し、同国のバランスの取れた経済発展に寄与する。

承諾額/実行額	475億800万円/417億8,100万円
借款契約調印	1989年3月~1993年8月
借款契約条件	金利2.5%~2.6% 返済30年(うち据置10年)、部分アンタイト
貸付完了	2000年5月~2003年1月
実施機関	国道公団



外部評価者 藺田 元(アイ・シー・ネット(株))
現地調査 2004年9月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに現道改良およびバイパス建設等が行われた。希少野生生物への影響を配慮した道路設計の変更や治安問題により、期間は計画を大幅に上回った。事業費は、物価の高騰、工事量増加等により計画を上回った。

交通量(平均4,530台/日)は、事業実施後の2004年には当初計画の89%に達している。事業実施前の1988年と実施後の04年を比較すると、平均交通量は4倍以上増えており、ほとんどの区間で長距離交通の比率が増加している。ペシャワール-カラチ間の移動時間は72時間から36時間に短縮され、渋滞も緩和された。

沿線地域におけるプラスの社会経済インパクトも現われており、同時期に実施された灌漑事業との相乗効果により、農業収入の向上や人口増加等がみられる地域がある。

また、公共交通(バス)の増便、大型化等により、住民の医療、教育等へのアクセスが向上している。

国道公団の技術および体制面は問題なく、財務面は良好である。

一部の区間において、過積載と無謀運転が交通事故の多発や路面の早期損傷に結びつくことから、国道警察による取り締まり区間の拡大、トラック計量所の増設等が行われることとなっている。

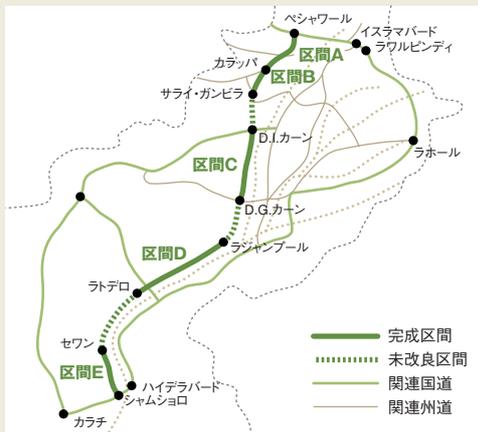
第三者意見

本事業は、効率的な国道網整備に寄与し、走行時間および走行距離の短縮や、交通量の分散による事故の減少、燃料と時間の節減がみられた。

有識者 Mr. Zafar Mueen Nasar (学者)

カンザス州立大学博士(経済学)。現在、パキスタン開発経済研究所人材開発主任研究員。専門はマクロ経済学、国際貿易等。

本事業の実施地域



A) ペシャワール - カラッパ
現道改良(車線追加) 29km (1996年完成)
現道改良(拡幅) 22km (1996年完成)

B) カラッパ - サライ・ガンピラ
バイパス建設 96km (1998年完成)

C) D.I.カーン - D.G.カーン
現道改良(拡幅) 211km (2001年完成)

D) ラジャンプール - ラトデロ
現道改良(拡幅) 270km (1999年完成)

E) セワン - ジャムシヨロ
現道改良(拡幅) 133km (1999年完成)



事業実施前の道路



米の集荷作業